



高知県

第 48 号 2007 年 7 月

農業技術センターニュース

目		次		
	高知県におけるタバコナジラミバイオタイプQの発生状況	… 1	 良食味で使い切りサイズのミニレタス‘マノア’	… 5
	中山間地域の雨よけ米ナスにおける生物農薬を利用した病害防除	… 2	 OTハイブリッドリリーの定植前処理（ブレルーティング）方法	… 6
	ピーマン・シシトウ黒枯病菌の寄生性	… 3	 種なしブンタンをつくる新技術	… 7
	ミャンマー（2005）において探索・収集したナス遺伝資源の特性	… 4	 コロマイト乳剤の作物登録に向けたシシトウの作物残留試験	… 8

高知県における

タバココナジラミバイオタイプQの発生状況



一般に、昆虫類は形態的な違いで分類されます。しかし、外観上は全く同じなのに寄主植物など生態的な特性が異なる場合があります、これをバイオタイプと呼びます。

2005年に日本で初めて分布が確認されたタバココナジラミのバイオタイプQは、従来から分布している在来系統や、これまでシルバーリーフコナジラミと呼ばれていたバイオタイプBに比べ、ネオニコチノイド系など多くの殺虫剤に対し抵抗性を発達させています。

高知県内の施設圃場(10市町村、13圃場)からタバココナジラミの成虫を採集し、バイオタイプを調査した結果、全ての圃場でバイオタイプQの発生が確認されました。

一部の圃場ではバイオタイプBや在来系統の発生も確認されましたが、いずれの圃場でもバイオタイプQが優占しており、県内に広く分布している可能性が高いと推察されました。

以上のことから、本県の施設圃場では、有効薬剤の少ないバイオタイプQが発生していることを前提に、タバココナジラミの防除対策を行う必要があると考えられます。

このため当センターでは、バイオタイプQに対する有効薬剤の探索や登録促進および、物理的、生物的防除技術を組み合わせた総合的な防除技術の確立に向けて研究に取り組んでいます。

(昆虫担当 下八川裕司 088-863-4915)